



市民活動の新たな挑戦

いろいろな悩みや不安、難題を抱える人たちを支え、問題解決に積極的に取り組む市民活動は各地ですそ野を広げている。ファイザー製薬ではヘルスケア分野の市民活動を支援し、その社会的認知を高めることを目的に、昨年から助成プログラムをスタートさせた。過去の実績にとらわれずに、活動のユニークさと将来性に評価の重点を置いているのが特徴。2000年度の助成対象となった各プロジェクト(下記参照)を中心に、7回連続(今回は5回目)でレポートする。

	団体名および活動内容・主な活動地域
1	特定非営利活動法人 自立支援センターファイティ ショッピングセンターの機能を生かした福祉サービス 青森県下田町
2	社団法人やどかりの里 精神障害者の政策決定参画をめざした日加交流 埼玉県さいたま市
3	さいたま市精神障害者家族会「もくせい会」 コリスのための「ラウンジ南浦和」 埼玉県さいたま市
4	特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター チャイルドライン千葉「子ども電話」 千葉県
5	インフォシブ InfoSib (Information Service for Siblings) (Web site)
6	川崎水曜パトロールの会 川崎ホームレス保健プロジェクト「冬を生きぬき、春を呼び込め」 神奈川県川崎市
7	特定非営利活動法人 リベラヒューマンサポート 中等教育を補う「コミュニティスクール」の実現 静岡県東部地区
8	外国人医療センター 在日外国人に対する医療支援事業 愛知県名古屋
9	特定非営利活動法人 プレーンヒューマニティー 不登校児童・生徒の支援にかかわるセミナー開催事業 阪神地域
10	西宮心の健康協会 西宮モデルによる地域メンタルケア推進プログラム 兵庫県西宮市
11	地域療育研究会 在宅障害児療育活動の地域ネットワークの構築 山口県宇部市
12	障害を持ちながらも自立と納得のいく社会参加をめざすふれあいセンター 精神障害者のための「つどい」事業の普及活動 沖縄県

野宿生活者とともに、健康な生活と人間を大切に作る社会を築き合おう

川崎ホームレス 川崎水曜パトロールの会(神奈川県川崎市)

川崎市教育文化会館に、ふだんは散らばって生活している仲間たちが70~80人が集まった。毎月1回の「仲間の日」である。今日は野宿の仲間たち自身による炊き出しの昼食のあと、赤十字奉仕団救急法指導員による応急手当の講義と実技指導、そして懇談が行われた。あちこちで仕事の情報交換や来られなかった仲間たちの消息安否確認互いの健康状態などについて話が交わされている。集まった仲間たちは全員が野宿生活者である。川崎市ではホームレスという呼び方はせずに野宿生活者で統一し、通称「水パト」で知られる安保智さんたちの支援活動の会も「川崎の野宿生活者有志と川崎水曜パトロールの会」が正式名称である。

を受け取りに来た人の実数で、取りに来れない人や知らない人、自活している人もいますから実際はもっと多いはず。昨年の国勢調査ですら川崎全区で1043人が確認されています」(安保さん)

この16年間に引き倒れを含めて約1600体が無縁仏として茶毘に付されており、昨年だけでも44人にのぼっている。安保さんたちが支援活動をはじめた1994年当時、川崎市には野宿生活者への行政対応はまったくなかった。安保さんたちは毎週水曜日の夜に市内の野宿生活者たちを訪ね歩き、いちばん困っていることは何か、健康状態はどうかなどナマの声を丹念に聞いて回った。そして人間として生きていくための最低限の権利である医・食・職・住など163項目の要望を野宿生活者とともに市当局につきつけ、



「水パト」のメンバーとして活動する安保さん

午後9時半から未明まで、川崎駅周辺や商店街などで行われている水曜パトロール(写真左)。「仲間の日」に行われた応急手当の実技指導。野宿者同士がお互いに支え合うために必要な技術も学ぶ(写真下)



毎日の食事の支給、病院での診察・治療、宿泊施設の確保など、ひとつひとつを根気よく交渉して勝ち取っていった。「行政が食料を毎日提供しているのは全国でも川崎と横浜くらい。また以前は救急車で運ばれても入院拒否で送り返されたりしましたが、現在は大半の人が川崎市民病院の診察券を持っています」

水曜パトロールは今も夏期は隔週1回、冬期は毎週1回続けていますが、それ以上に力を入れているのが「仲間の



写真上：香野さん(右)をはじめとする「日加交流プロジェクト」に関わる人たち
写真下：「やどかり印刷」の工場



このカナダのオンタリオ州の活動について職員と精神障害者が共同で学習を重ね、実際にカナダからゲストを招いてセミナーを2000年1月に開催した。これが大きな転機になったと、常務理事の増田一世さんが話す。「企画から実施までたくさんの当事者(精神障害者)の方たちがセミナーに携わってくれました。それまではどこか職員主導という側面がありました。これを機に真の意味での共働をめざそうと強く思うよう

ファイザープログラム 「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」 2001年度 募集要項

1. 募集期間：2001年7月2日～8月13日
2. 助成金：1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間：2002年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野：特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1) 成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2) 社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3) 障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先：
ファイザー製薬株式会社 企業文化室
03-3344-7524
応募要項はホームページ
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます

精神障害者の声を反映した 街づくりをめざしてカナダと交流

社団法人やどかりの里(埼玉県さいたま市)

「やどかりの里」は、さまざまな活動を通じて精神に障害を持つ人たちの生活を30年にわたって支援してきた。発足当初は数人だった職員も、現在は約50人。さいたま市内に点在する「生活支援センター」を利用する精神障害者はおよそ180人を数える。

理念としているのは、職員と精神障害者がパートナーシップを築いたうえでの活動展開。これはコンシューマーのイニシアチブ(当事者「精神障害者」によるイニシアチブ)という考え方がもたれている。この言葉がピユラーであるカナダのオンタリオ州は政策決定への参画をはじめ、精神障害者にとって先進的な環境にある。

「日」の充実である。野宿生活者はともすると孤立し、ストレスや孤独感からアルコール依存症や鬱病などの心の病に侵されることが多い。それを防ぐには同じ境遇にある仲間たちの顔を見ながら語り、心を癒し、決して自分は一ひとりぼっちでないと意識を肌で感じる事が大切だ。

「今後はさらに多くの仲間が集まれるように『仲間の日』を充実させ、仲間との語りを通して、食を含めての健康管理と病気の早期発見、アルコール依存症対策などについて取り組んでいきたい」と安保さんたちは気持ちを新たにしている。



「精神障害者が住みやすい街づくりを」と話す増田さん

「自身も精神に障害を持つ、理事の香野英勇さんが続ける。『双方がまったく同じ問題意識をもつて同じ目標に向かうようになって、自分たちが何を考え何を学び得るのが大事なのか、わかったように思います』このセミナーで学び得たことをさらに

「精神障害者を含むすべての住民を主体においた政策が行われるような環境の実現には何十年もかかるでしょう。草の根の活動からコンシューマーのイニシアチブの理念を日本でも広めていきたいと考えています。」(増田さん)

に発展させようと取り組んでいるプログラムが、「精神障害者の政策決定画を目指した日加交流」だ。9月に当事者と職員合わせて10人がカナダを訪問し、現地の様子を視察する。コンシューマーや行政の人たちに話を聞き、精神障害者の声を反映した街づくりを実現するためには何が必要なのか学ぶ。そのうえで、自分たちのすべきこと方向性を探っていくつもりだとか。